

令和7年度 学校経営の基本方針

南魚沼市立大崎小学校

校長 中俣 元美

1 校長の願い

「安心と安全の中で、自分らしさを発揮し、よさと成長を自覚できる子ども」

「子どもも保護者も職員も、大崎小でよかったと思える学校」

2 学校経営の方針

- ・ 子どもの思いやよさを認め、どの子どもにも居場所のある温かい学級、明日も来たくなる学校を目指す。
- ・ 子どもが満足感や成就感を得ることのできる教育活動を推進し、よさや成長を実感させながら、自己肯定感や自己有用感を育む。
- ・ 自他を尊重し、思いやりのある生活を送ろうとする態度を育み、人権尊重の教育活動を進める。
- ・ 日常的な授業改善を重視し、基礎的・基本的内容の確実な習得を図りながら、ICTの活用を進め、個別最適な学び・協働的な学びを推進する。
- ・ 主体的なあいさつと心身の健康づくりに取り組もうとする子どもを育む。
- ・ 保護者や地域の教育力を積極的に教育活動に生かしながら、はなさき本部との連携を大切にし、地域とともにある学校づくりを進める。
- ・ 「チーム大崎」の一員としての思いをもち、全職員で認め合い、支え合う職員集団をつくる。

3 目指す子ども像

＜教育目標＞ 強く 明るく 伸びる子

＜重点目標＞ よさや成長を自覚し 認め合い 高め合い 主体的に学ぶ子ども

- 自分の考えをもち、伝え合い、深め合う子(学びの充実)
- 互いに思いやり、認め合い、高め合う子(心の育成)
- 進んで運動し、健康で規則正しい生活習慣を身に付ける子(健康な体づくり)

4 学校全体として基盤となる取組

(1) 安全な教育活動の推進

- 子どもの命を預かっていることを日々思い、教育活動に取り組む。
- 安全管理は、教育活動の全ての前提として行動する。
- 「もしかしたら」の危機意識と高いアンテナを常にもつ。

(2) 安心できる学級、学校

- どの子どもにも居場所のある学級、学校をつくるため、自分にできることに毎日取り組む。
- よさや頑張りを認め合える集団、弱さや不得手なことを助け合い、支え合える集団をつくる。
- 職員の笑顔・言葉・姿が、子どもの笑顔をつくる思いをもち続ける。

(3) 信頼される教育活動の推進

- 非違行為の根絶、信用失墜行為の禁止
 - ・ 教育公務員であるという自覚を忘れない。
 - ・ 一人の気のゆるみが、学校全体の信頼を失わせる。
 - ・ 一瞬の気のゆるみが、自分と家族の人生を変え、今までの努力を0にする。
- 日々の姿で生み出される信頼
 - ・ 丁寧な連絡、対応の一つ一つが、信頼のベースになる。
 - ・ どのようなことであっても、話をしてくれたことへの感謝の気持ちをもつ。
 - ・ さわやかな言葉遣い、態度、服装、あいさつの持ち主であるよう努める。

(4) 元気になれる指導、やる気になる授業、人としての心を育てる教育活動

- 一人一人のよさや成長を、その子どもが実感できるように伝える。
- 子どもの後ろには、保護者がいることを忘れない。信頼感があって指導ができる。
- 生徒指導は、組織で対応する。一人で抱え込まない。
- 地道な教材研究が、子どもが意欲をもって学ぶ授業、子どもの力を伸ばす授業をつくる。
- 学びたいと思う授業、学びの種を育てる教室、学びを楽しいと思う学級集団をつくる。
- 指導の最後の言葉が、子どものその後を左右する。

(5) 「チーム大崎」として認め合い、助け合う集団の一員に

- 互いの言動を尊重し合いながら、「チーム大崎」としてベクトルをそろえ、協働する。
- 見えていることだけでなく、見えないところでも支え合っていることを忘れない。
- 「報・連・相」（報告・連絡・相談）は、自分と学校を守る。経過と結果の報告をする。

5 最後に

- 「教職員の健康」あつての「子どもの笑顔」
- 「何を教えるかではなく、どのような姿で子どもの前に立つか」を常に心にもつ。
- 子どもを真ん中に学校・保護者・地域が力を合わせて 152 年目の大崎小を共に創る。

たくさん話そう、それぞれの思いをまずは認めよう、誠実さを大事にしよう
どんなに頑張っても失敗することがある、失敗から学べる学校にしよう
子どもたちのために私たちがいることを忘れないでいよう